

## 第7回 語りべの会 開催報告

さる2月17日(水)、東京大学本郷キャンパスの山上会館にて「第7回 語りべの会」を開催しました。

「語りべの会」は、ダムに関わる技術者や学生を対象に、ダム技術やダムに関する様々な話題に触れる機会を提供するとともに、学・官・民の連携・交流を深めることを目的として開催しています。

今回は“現代社会に潜む大水害のリスク”をメインテーマに、語りべとして(公財)リバーフロント研究所理事 土屋信行氏から「東京(江戸)を守るため河川の変遷」の講演を頂くとともに、ダム愛好家であり日本ダム協会認定のダムマイスターでもある、夜雀氏を交えてパネルディスカッションを行いました。

土屋信行氏のご講演では、東京を取り巻く河川環境の変遷と、人々と河川との付き合い方の移り変わりについてご説明いただき、現代に潜む洪水時のリスクについてわかりやすくご講演いただきました。洪水被害を小さくしていくためには、上流でのダムの働き、中流域の〇〇、下流域の堤防の働きといった流域全体でのハード面の治水対策を講じるだけでなく、ハザードマップや避難体制の確立、危機意識の向上といったソフト面の対策が併せて大切であることをご説明いただきました。

また、パネルディスカッションでは、「ダムの仕事でよく勘違いされていることについて」と題して、洪水時の報道で見られるダムについての誤解や、平成27年の関東・東北豪雨における鬼怒川4ダムの働きについて、夜雀氏に話題提供をしていただいたうえで、メインテーマの“現代社会に潜む大水害のリスク”についての参加者からの疑問・質問を中心に議論を進めていきました。

### 参加人数

学生 (大学関係)	官公庁 財団等	建設会社	コンサル タント	他、民間 一般参加	総計
15	9	10	17	7	58

※事務局を含む

## プログラム

### ★開催挨拶

ダム工学会 会長 濱口 達男



### ★講演「東京(江戸)を守るため河川の変遷」

語りべ:(公財)リバーフロント研究所 理事 土屋信行氏



## ★パネルディスカッション

○話題提供「ダムファン目線で見ると 水害に対するダムの貢献」  
「ダムの仕事でよく勘違いされていることについて」

語りべ:ダムマイスター 夜雀氏



## ○パネルディスカッション

語りべである土屋氏、夜雀氏に加え、若手の会実行委員である中野、神戸を交えて“現代社会に潜む大水害のリスク”に関する議論を行いました。主な議題、参加者からの質問は以下のとおりです。

- ・一番印象深いハイドログラフは？
- ・マスコミとしてどこまでの情報を伝えていくべきか。



パネルディスカッション中の会場の様子